

『ファウスト』『悦楽共犯者』につながる傑作短編『ジャバウオッキー』『ドン・ファン』『アッシャー家の崩壊』など劇場未公開作12作を一挙上映!!

# Jan Švankmajer

ヤン・シュヴァンクマイエル  
Touch & Imagination  
触覚と想像力

## 未公開作を全てオリジナル・ヴァージョンで上映

チェコでは『アマデウス』のミロシュ・フォルマン監督や『存在の耐えられない軽さ』の作家ミラン・クンデラなど多くの芸術家が亡命したが、シュヴァンクマイエルはチェコで作品を撮り続けることを選び、様々な検閲と闘った。今回、改変させられた作品をシュヴァンクマイエルの意図通り全てオリジナル・ヴァージョンで上映。国内で上映禁止となり英語版が作られた『ジャバウォッキー』と台詞を全て音楽に差し替えられた『コストニツェ』はチェコ語のオリジナル版で、またお蔵入りにされた『オトランドの城』もカットされたシーンをオリジナルの形に戻した貴重なもの。



悪夢という言葉彙を人は悲しき文学趣味で使いたがる。だが、それは本来シュヴァンクマイエルのフィルムのようなものだけに当てはまる。悪夢は時にユーモラスで、慣れ親しんだものが異貌をあらわす瞬間の連続なのだ。

小学生の娘は『アリス』が大好きで『ジャバウォッキー』も大喜びでした。ヤン・シュヴァンクマイエルのシルレアリズム映像は子供の心も捕らえて離さないようです。あ、そういう僕も大人であることを忘れてました。

**佐野史郎**【俳優】

いとうせいこう【作家】

## カンヌ、ヴェネツィアなど世界中の映画祭で受賞

受賞歴がないのは、検閲でお蔵入りにされた作品だけとも言えるほど、撮るもの全てが圧倒的な評価を受けているシュヴァンクマイエル。全ての作品に妥協がなく、その革新性、普遍性で新たな観客を増やし続けている。

実写・クレイ・切り絵・フロッタージュ・線画・オブジェクトのコマ撮りなど様々な技法を組み合わせて独自の世界を生み出すシュヴァンクマイエルの映像。カフカや『ロボット』という言葉を生みだしたチャペック、錬金術やマニエリスム、最先端の機械と職人的な技術が混在するチェコの不思議な伝統に裏打ちされた、独特なユーモアと不条理感に満ちた映像は一度見たら忘れられない強さを持っている。



# あらゆるクリエイターが注目する ヤン・シュヴァンクマイエルの映像マジック

『ジャバウォッキー』立ち枯れた森の奥深く、古いお城の開かずの間、隠し扉の裏側の、主を失った子供部屋、埃にまみれた宝物、宝石のようなガラクタたち。眠らずに見る、異国の夢。

**吉野朔実**【マンガ家】

テクノロジーは、平面的であるか触感的であるかによって価値を決定されるものではなく、創作者の第六感の中に潜む意識の解釈によって、初めてその存在理由を与えられるものであるということこそを再認識させられた。

**滝沢直己**【アイッセイミヤケデザイナー】

### Aプロ (2人・90分)

#### 『J.S.パヴァー-G線上の幻想』(1965/10分/モノクロ)

原案・脚本・アニメーション・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/スヴァトプルク・マリー 音楽/J.S.パヴァー オルガン演奏/出演/イジー・ロベク 制作/クラートキー・フィルム・プラハ \*カンヌ映画祭受賞

○パヴァーの曲の演奏に合わせて、ひび割れた壁や風にさらされた窓、錆びた鉄棒などが映る。脚本を問わず即興的に撮影した作品。

#### 『シュヴァルツェヴァルト氏とエドガル氏の最後のトリック』(1964/11分/カラー)

原案・脚本・美術・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/スヴァトプルク・マリー 音楽/ステニエック・リシュカ 出演/ユライ・ヘルス、イジー・プロハースカ、エヴァ・シュヴァンクマイエル、ヴァン・プラハ、ブルベツカ、ヨセフ・ヤコベク、カレル・シュホシュク 制作/クラートキー・フィルム・プラハ \*ベルガモ映画祭、マンハイム映画祭、トール映画祭、プロニス・アリス映画祭受賞

○仮面をつけた二人の紳士が舞台上に現れ、不思議な手品を披露し合う。ラテラル・マジックなどでの舞台演出の経験を生かしたシュヴァンクマイエルのデビュー作。

#### 『家で静かな一週間』(1969/20分/カラー・モノクロ)

原案・脚本・美術・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/スヴァトプルク・マリー、カレル・スザン アニメーション/スデニエック・ショップ 出演/ヴァーツラフ・ボロヴィチカ 制作/クラートキー・フィルム・プラハ \*オーバーハウゼン映画祭、タンペレ映画祭受賞

○人目を避けて一軒の家にやってきた男。ドアに穴を開け、部屋を覗くと、ありふれた物が独自の論理で動く、超現実的な世界がそこにはあった。

#### 『庭園』(1968/17分/モノクロ)

原案・台詞/イヴァン・クラウス(短編小説「生け垣」) 脚色/小・ゴルド 脚本・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/スヴァトプルク・マリー 音楽/J.S.パヴァー、キンドルマン、衣袋/エヴァ・シュヴァンクマイエル 出演/イジー・ハルカ、ルジク・コボヴァ、ミレーラ・スリコヴァー、ヴァーツラフ・ボロヴィチカ、フランティシュ・フサーク 制作/クラートキー・フィルム・プラハ \*ヴェネツィア映画祭受賞

○久しぶりに会った友人の家に招かれる男。郊外のありふれた家だが、家の周りを人々が、まるで生け垣のように互いに手を繋いで取り囲んでいる。何気ない会話が社会主義体制への暗示として意味ありげに響く。

#### 『オトランドの城』(1973/79/18分/カラー)

原案・脚本・ホレス・ウォルボルの同名のゴシック小説 脚本・美術・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/イジー・シャファアーシュ 音楽/ステニエック・リシュカ アニメーション/クセニエ・ヴァレシコヴァー、カレル・ホホリーノ 出演/ヤロスラフ・ヴォザーフ、ミロシュ・フリバ 制作/クラートキー・フィルム・プラハ

○幻想小説『オトランド城綺譚』の舞台が、実は東ボヘミアに実在する城だという伝説を、現地で学者が解説するテレビ番組という趣向。古文書の挿し絵が切り絵として動き、学者の解説と皮肉な対照をなす。

#### 『ジャバウォッキー』(1971/14分/カラー)

原案/ルイス・キャロル『鏡の国のアリス』より『ジャバウォッキー』のテーマ 脚本・美術・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/ボリス・パロウキン 音楽/ステニエック・リシュカ アニメーション/ヴラタ・ボスビーシロヴァー ナレーション/ヴェロニカ・シュヴァンクマイエル 制作/クラートキー・フィルム・プラハ \*オーバーハウゼン映画祭、アトランド映画祭受賞

○ジャバウォッキーは、ルイス・キャロルの『鏡の国のアリス』に登場する怪物。ジャバウォッキーの語が朗読され、子供部屋のおもちゃが動き始める。

### Bプロ (6作・88分)

#### 『棺の家』(1966/10分/カラー)

原案・脚本・美術・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/イジー・シャファアーシュ 音楽/スデニエック・リシュカ アニメーション/ボフスラフ・シュラメク 出演(人形遣い)/ナジャム・ザロヴァー、イジー・プロハースカ 制作/クラートキー・フィルム・プラハ \*マンハイム、クロムエージュ映画祭受賞

○一匹のモルモットをめぐって争う道化連。パンチとジュディのような指人形を使い、木箱で限り合うスラプスティック・グロテスク・コメディ。

#### 『コストニツェ』(1970/10分/モノクロ)

原案・脚本・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/スヴァトプルク・マリー 音楽/イヴォ・シュバリョ 制作/クラートキー・フィルム・プラハ

○15世紀のボス戦争の死者など数万人の骨を収集し、オランダのシュルツェンベルク公爵によって完成された納骨堂に関するドキュメンタリー的作品。

#### 『エトセトラ』(1966/7分/カラー)

原案・脚本・美術・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/イジー・シャファアーシュ 音楽/スデニエック・リシュカ アニメーション/ヴラタ・ボスビーシロヴァー、ヤン・アダム 制作/クラートキー・フィルム・プラハ \*カルロヴィ・ヴァー映画祭、オーバーハウゼン映画祭、クロムエージュ映画祭受賞

○フロッタージュの技法を使い、三つのエピソードで構成される。第一話「賢」、第二話「賢」、第三話「家」。

#### 『アッシャー家の崩壊』(1980/16分/モノクロ)

原案/エドガー・アラン・ポーの同名の短編小説 脚本・美術・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/ミロスラフ・シュバール 音楽/ヤン・クルサク アニメーション/ペドジフ・クラスル、ヤン・シュヴァンクマイエル ナレーション/ペトル・チュベック 制作/クラートキー・フィルム・プラハ \*クラクフ映画祭、ポルト・ファンタジー映画祭受賞

○「全ての無機物にも知覚はある」と語るアッシャーの言葉。彼の精神状態や邸の崩壊する様子が、沼の粘土や木の根、朽ち果てる椅子などで表現される。ナレーターのパトル・チュベックは後に『ファウスト』の主役も演じている。

#### 『レオナルドの日記』(1972/12分/カラー)

原案・脚本・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 美術/グラティエラ・クラジヴァ 撮影/イジー・シャファアーシュ 音楽/ステニエック・リシュカ アニメーション/ヴラディミール・クラジヴァ、カレル・ホホリーノ 制作/クラートキー・フィルム・プラハ、コロナ・チネマトグラフィカ・ローマ(イタリア)

○レオナルド・ダ・ヴィンチのデッサンや図面がアニメーションとして動き、それに合わせ、崩れ落ちるビルや回転するモテルなど、数秒ずつの映像がニュースフィルムなどからコラージュされる。

#### 『ドン・ファン』(1970/33分/カラー)

原案/チェコの伝統的な人形劇 脚本・美術・アニメーション・監督/ヤン・シュヴァンクマイエル 撮影/スヴァトプルク・マリー 音楽/ステニエック・リシュカ ナレーション/フランティシュ・ヴァリボフスキー 仮面/ヴァイ・チェスワフ・クシムジ、ヨセフ・ボトセドニエック、ミロスラヴァ・ヴォルコヴァー、ミロスラフ・クワンニク 制作/クラートキー・フィルム・プラハ \*クロムエージュ映画祭受賞

○放蕩息子であるドン・ファンは、許婚を弟に奪われ、父にも見放され、復讐を行う。後の長編『ファウスト』に繋がる要素が随所に見られる。

\*上映は各プログラムとも表記の順番通りです。  
配給●チェスキー・ケー/レン コーポレーション

8/18(土)~24(金) ※火曜休 Aプロ=1:00/4:30 Bプロ=2:45/6:15  
8/25(土)~31(金) ※火曜休 Aプロ=10:45 Bプロ=20:00  
前売1回券¥1,400、2回券¥2,400好評発売中! 劇場窓口でご購入の方に先着でポストカードプレゼント!  
当日/一般¥1,700・学生¥1,400・シニア¥1,000(1プログラムにつき)

**神戸アートビレッジセンター**  
神戸高速「新開地」より徒歩3分、JR「神戸」より徒歩10分  
tel.078-512-5500 http://kavc.or.jp

**Osaka** 扇町ミュージアムスクエア 10月  
【問】06-6361-0088 http://www.oms.gr.jp

**Kyoto** 京都みなみ会館 11月  
【問】RCS:075-342-4050 http://www.rcsmovie.co.jp